

## 平成 24 年度第 1 回コンクリート常任委員会議事録（案）

日 時：2012 年 5 月 17 日（木）14 時～17 時

場 所：土木学会 A B 会議室

出席者：二羽委員長，下村幹事長，松田（入屋委員の代理），梅原，矢口（岡澤委員の代理），松村（金津委員の代理），鎌田，黒田，佐藤，島，鈴木，武若，田中，西垣，信田，橋本，濱田，丸山，横田，渡辺の各常任委員，綾野，岩波，小林，佐藤，久田の各常任委員兼幹事

配布資料：

- 1-0 平成 24 年度第 1 回常任委員会 議事次第
  - 1-1 平成 23 年度第 6 回常任委員会 議事録案
  - 1-2 コンクリート委員会委員構成
  - 1-3 トンネル構造物の耐火技術に関する委託研究願い
  - 1-4 第 3 種小委員会繊維補強コンクリートの構造利用研究小委員会設立申請書
  - 1-5-1 示方書改訂小委員会／設計編部会委員構成
  - 1-5-2 示方書改訂小委員会／施工編部会委員構成
  - 1-5-3 規準関連小委員会委員構成
  - 1-5-4 教育研究小委員会
  - 1-5-5 がれき処分と有効利用に関する調査研究小委員会（222 委員会）委員構成
  - 1-5-6 大河津可動堰記録保存検討小委員会（272 委員会）委員構成
  - 1-6 施工編 2012 版改訂概要
  - 1-7 コンクリート委員会平成 23 年度一般会計決算／平成 24 年度一般会計予算
  - 1-8 平成 23 年度「重点研究課題」調査研究報告書（概要版）
  - 1-9 施工性能にもとづくコンクリートの照査・検査システム研究小委員会（341 委員会・2 期目）委員構成
  - 1-10-1 CO<sub>2</sub>削減を考慮したコンクリート構造物の解体，再利用，補修技術に関する調査研究小委員会「成果報告会」
  - 1-10-2 「ポンプ&高流動コンクリート指針に関する講習会」東京会場開催のご案内
  - 1-10-3 けい酸塩系表面含浸工法の設計施工指針（案）講習会
  - 1-10-4 「コンクリート構造物の補修・解体・再利用における CO<sub>2</sub>削減を目指して」に関する講習会および「けい酸塩系表面含浸工法の設計施工指針（案）」に関する講習会
  - 1-10-5 コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関するシンポジウムの開催案内とシンポジウムでの講演募集
  - 1-10-6 「コンクリート中の鋼材の腐食性評価と防食技術に関するシンポジウム（二期目）開催のご案内と発表論文の募集
  - 1-11 運輸分野におけるコンクリート標準示方書セミナー（企画案）
- 参考資料 鉄筋継手

議事：

### 1. 委員長挨拶（二羽委員長）

二羽委員長より，コンクリート委員会の担当が村木氏から二瓶貞洋氏（snihei@jsce.or.jp）に交代したとの紹介があった。また，本日の施工編から順に始まる示方書の審議に対し，意見を活発に出して欲しいと，挨拶があった。

### 2. 平成 23 年度第 6 回コンクリート常任委員会議事録の確認【資料 1-1】

- (1) 土木学会規準 EPMA 法を ISO 規準として使用したいと申し出のあった機関を，ISO TC71 から ISO TC202 国内対応委員会に変更する。また，「使用したい」ではなく，「提案したい」に変更する。
- (2) ベトナムとのジョイントセミナーの報告者を，鎌田幹事から鎌田委員に変更する。
- (3) ポンプ施工および高流動コンクリートの合同講習会の日程を「6 月 11 と 12 日」から，「6 月 5 と 12 日」に変更する。

### 3. 平成 24 年度コンクリート委員会・コンクリート常任委員会の委員構成【別紙資料 1-2】

常任委員会：（交代）六郷恵哲→内田裕市（岐阜大学），入矢桂史郎→松田隆（大林組）

委員会：（交代）内田裕市→六郷恵哲（岐阜大学），（新任）梅村靖弘（日本大学）

※ なお，後日，睦好委員の名前が抜けていたことが判明し追記した。

#### 4. 審議事項

- (1) 新規委託「コンクリートトンネル構造物の耐火技術に関する研究ならびに設計施工指針（案）の策定」【資料1-3】
  - ・ 委員長を岩波幹事とする。
  - ・ 委員会構成は、委員長一任とし、委員会構成案を次回常任委員会に提出する。
  - ・ 本委員会は、耐火メーカーと建設会社からの委託で、委託費用は800万円/2年である。
  - ・ 委員会番号は、270とする。
- (2) 新規3種委員会「繊維補強コンクリートの構造利用研究小委員会」の設置申請【資料1-4】
  - ・ 委員長を内田裕市(岐阜大学)、幹事長を国枝稔(名古屋大学)とし、繊維補強コンクリート(FRC)から粗骨材を含まないセメント複合材(FRCC)までを網羅し、これらの構造物への適用範囲拡大を目的とした活動を行う。
  - ・ 委員会番号は、346とする。
- (3) 1種および2種委員会の委員構成
  - ・ 示方書改訂小委員会設計編部会【資料1-5-1】  
(交代) 委員：池田博之→青木圭一(高速道路総合技術研究所)、(新任) オブザーバー：浅本晋吾(埼玉大学)
  - ・ 示方書改訂小委員会施工編部会【資料1-5-2】  
変更箇所が不明のため、確認後に審議することとなった。
  - ・ 規準関連小委員会【資料1-5-3】  
(交代) 委員：田中秀樹→横尾彰彦(ジオスター)
  - ・ 教育研究小委員会【資料1-5-4】  
(交代) 委員長：宇治公隆→渡辺博志(土木研究所)、委員：杉橋→根本浩史(清水建設)、新井→橋本学(鹿島建設)、二井谷→渡瀬博(オリエンタル白石)
  - ・ がれきの処分と有効利用に関する調査研究小委員会【資料1-5-5】  
コンクリート委員会と地盤工学委員会との合同委員会で、重点研究課題として採用された委員会であるが、コンクリート委員会が所轄し、委員会番号を222とする。第1回を6月1日に開催する。
  - ・ 大河津可動堰記録保存検討委員会【資料1-5-6】  
(新任) 委員：岩崎英治(長岡技科大)、岸利治(東大)、保坂吉則(新潟大)、宮下剛(長岡技科大)

#### 5. 示方書施工編の審議【資料1-6】

- (1) 主な変更点
  - ・ 打ち込み終了後の気温が35℃以上であっても、性能が満たされることが確認されれば、打ち込みを行っても良いものとする。
  - ・ ○適マーク承認工場の使用義務は残すが、文章の順番を以下のように変更する。  
「○適マーク承認工場の中から、運搬可能な時間内にある工場から選定する。」  
→ 「運搬可能な時間内にある○適マーク承認工場の中から選定する。」
  - ・ かぶりを担保することが難しい上部工等において、かぶりが50mm以下の場合や、塩害地域において、かぶりの検査を義務づける。
  - ・ 前回配布の常任委員会名簿において、睦好委員の名前が漏れていた。
- (2) 質疑内容
  - ・ [丸山] マスコンクリートのひび割れ照査については、設計では行わないのか。  
→ [下村] 設計段階でもやるが、具体的なことが決まっていないことがあるので、施工でも再度照査を行うことになっている。また、実績のあるものは解析を行なう必要は無い。
  - ・ [丸山] 新しい技術を示方書に入れるかどうかの判断基準はどのようになっているのか。  
→ [濱田] 収縮低減剤等、今までに指針類の出ているものを基本とするが、施工実績の多いものについても取り入れている。
  - ・ [丸山] スランプ15と16等(p.63表4.4.4)、1cmの差を設けるほど細かくする意味はあるのか。  
→ [橋本] その通りかもしれない。ただ、施工性能の委員会報告をそのまま取り入れているので変更は難しい。
  - ・ [武若] かぶりか、かぶり厚さか。  
→ [濱田] かぶりで統一する。

- ・ [武若] 35℃を越える場合も打ち込みを許すことは済し崩しにつながらないか。  
→ [濱田] 現時点で回答できないので、河野主査に確認する。
  - ・ [鎌田] 計画配合の定義はあるが、後に出てこない。せめて、フローに出してほしい。  
→ [濱田] 河野主査に伝える。
  - ・ [鈴木] 示方配合や計画配合等、用語を頻繁に変更するのは適切でない。  
→ [濱田] 2007年版の時点で示方配合は削除されている。この経緯を改訂資料で詳細に解説するようにしたい。
  - ・ [鈴木] 設計編では強度の範囲が80N/mm<sup>2</sup>となっており、施工編では50N/mm<sup>2</sup>となっている。統一は図らないのか。  
→ [信田] 施工編の特殊コンクリートの中に80~100N/mm<sup>2</sup>の高強度があるのでこのままで良い。
  - ・ [梅原] どの部分をコンパクトにしたのか  
→ [濱田] 検査などで、重複しているところを消した。
  - ・ [梅原] 特殊コンクリートを削除するのは、施工編部会以外からの意見も聞くべきではないか。  
→ [丸山] 改訂委員会でも議論しているので、施工編部会以外からの意見も聞いている。
- (3) 施工編の今後の審議
- ・ 施工編部会は、改訂のポイントを整理し、幹事会に至急送る。改訂のポイントは、WEB上から常任委員が見られるようにする。
  - ・ 常任委員は、6月中に意見を。河野主査と坂田副主査に随時送る。意見書の書式は自由とする。
  - ・ 10月の常任委員で再度審議する。
- (4) 他編の今後の審議の方法について
- ・ 各部会は、幹事会までに改訂のポイントを提出する、幹事会は、改訂資料をダウンロードできるようにする。
  - ・ 常任委員会で説明する際は、パワーポイントを用いる。
  - ・ 質問期間は、一ヶ月とし、主査と副主査、両者に質問・意見を送る。
  - ・ 7月の常任委員会における審議は、設計編と共通編とする。
  - ・ 9月の常任委員会における審議は、維持管理編とダム編とする。

## 6. 報告事項

- (1) 平成23年度決算報告、平成24年度予算状況【資料1-7】
- ・ 決算について：本部から約300万円、委託が約100万円、仕掛金として1,800万円の収入があった。
  - ・ 予算について：本部から約300万円、委託が約300万円ある。仕掛金として1,400万円を予定している。
  - ・ 平成23年度に、大河津委員会の委託費が入っているはずである。
  - ・ けい酸塩委員会とポンプ施工委員会の委託費の額が逆ではないか。
  - ・ 予算書における委託委員会の数が2件ではなく、3件の誤りである。
  - ・ 201よび271委員会の委員長名、幹事長名に誤りがある。270委員会の委員長名に岩波幹事を入れる。
  - ・ 委託金のうち、本年度より、活動費の33%（昨年まで委託金の25%）を本部が徴収し、残りの10%をコンクリート委員会が徴収する。
- (2) 重点研究課題の成果報告【資料1-8】
- ・ これから344委員会として、1年間活動を継続する。
  - ・ 設計と維持管理の連携システムを継続して検討する。
- (3) 3種委員会の委員構成
- ・ 施工性能にもとづくコンクリートの照査・検査システム研究小委員会（341委員会2期目）【資料1-9】  
（新任）委員：池田雅隆（東京エスオーシー）、松本浩一（JR東日本）
- (4) 報告会・講習会
- ・ 「コンクリート構造物の補修・解体・再利用におけるCO<sub>2</sub>削減を目指して」に関する講習会（5月23日東京）【資料1-10-1】  
現在、登録40数名である。参加を呼びかけるよう依頼があった。
  - ・ ポンプ&高流動コンクリート指針に関する講習会案内（6月5日12日東京、6月25日大阪、6月26日名古屋ほか）【資料1-10-2】  
3会場で250名を予定している。ホームページに掲載できなかったもので、参加を呼びかけるよ

- う依頼があった。
- ・ けい酸塩系表面含浸工法設計施工指針（案）講習会（7月13日東京）【資料1-10-3】  
300名の参加者を予定していると説明があった。
  - ・ 「コンクリート構造物の補修・解体・再利用におけるCO2削減を目指して」「けい酸塩系表面含浸工法の設計施工指針（案）」合同講習会（7月31日名古屋ほか）【資料1-10-4】  
名古屋（7/31）、広島（8/30）、仙台（9/10）、札幌（10/12）、福岡（11/16）で講習会を開催する。
  - ・ コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関するシンポジウムの開催案内とシンポジウムでの講演募集（11月15日東京）【資料1-10-5】  
午前に委員会報告を行い、午後に特別講演と一般論文発表を行う予定であると報告があった。  
あわせて、一般論文発表の申込み受付中であり、積極的な応募が依頼された。
  - ・ 「コンクリート中の鋼材の腐食性評価と防食技術に関するシンポジウム（二期目）」開催の案内と発表論文の募集（10月19日東京）【資料1-10-6】  
論文募集（申込み〆切：7/20、原稿提出〆切：8/31）の案内があった。
- (5) 平成24年度全国大会における研究討論会の案内  
久田幹事より、震災を受けて、「コンクリートに何ができるか」をテーマに、大会3日目の9月7日（金）に、研究討論会を行うことが報告された。次回常任委員会で、詳細が説明される。

## 7. その他

- (1) JETRO（日本貿易振興機構）インフラプラント支援課より、コンクリート標準示方書のベトナムでの講習会に支援を頂ける可能性があることの紹介が佐藤幹事よりあった。事業の概要は下記のとおりで、長期的な取組みになる可能性もあると説明があった。
- ・ 開催場所：ベトナム国ハノイ
  - ・ 開催時期：平成24年8～9月
  - ・ 講師：日本側から示方書の説明者3～4名、設計事例説明者1名を派遣、ベトナムの現状をベトナムから1名
- (2) 次回開催日
- ・ 常任委員会：2012年7月3日（火）14時～17時、鯉城会館（広島市）
  - ・ 幹事会：2012年6月26日（火）
  - ・ 議題は、幹事会へ6月25日（月）までに提出

以 上